

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人ハンズハンズ 未来育ディ		
○保護者評価実施期間	R7年12月5日 ～ R8年1月9日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	R7年12月1日 ～ R7年12月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人に寄り添い、特性、性格を把握し、理解した上で支援を検討することができる。	氷山モデル、応用行動分析学（ABA）、TEACCHプログラムの考え方を学び、支援に取り入れている。日頃のやりとりや行動観察、保護者の方から得た情報等から、こどもの好きなもの、苦手なものを把握し、意欲的に活動や課題に取り組むことができるよう、興味のあるもの、好きなものをもとに活動を留意している。	さまざまな支援方法を学び、精査しながら柔軟に取り入れることで、こどもそれぞれに合った支援を見つけることができるように検討する。
2	視覚支援を取り入れている。	上記1の取り組みとも重なるが、こどもそれぞれの好きなものや処理しやすい情報量、提示の仕方等を把握し、オリジナルの視覚支援シート、カード、ポスター等を作成している。使用してみて課題が見つければ適宜修正し、使いやすいものを模索することができる。	同上
3	開かれた事業所運営をしている。	Youtubeチャンネルにて、承諾いただいているお子さんの動画や写真の投稿を行うことで、保護者の方、地域の方等に、文字だけでは伝わりきらないお子さんの様子を見ていただくことができる。撮影を頻繁にすることで、職員も自身の声掛けや支援の仕方を客観的に見て、より良い支援が提供できるよう意識することができている。また、毎月自由参観の週を設け、希望された保護者の方が気軽に来所し、様子を見ていただけるようにしている。	Youtubeで支援の様子を見ていただく上で、活動のねらいやすすめ方、発達段階や特性について、支援のポイントやその理由、意図などもあわせて伝えることで、保護者支援につなげることができるよう、より分かりやすい撮影編集の仕方を意識していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ハード面の課題（壁紙の剥がれや床の傷、サビ、ドアのがたつき等）が複数ある。	現在事業所として使用している建物は、元々はカラオケ店であり、障がい者施設として建てられたものでないため、バリアフリー化が難しい。築年数が長いため、老朽化している箇所がある。	壁紙の剥がれや床の傷など、修繕できるところから直し、衛生的に、安全に使用できるようにしている。
2	障がいのないこどもとのかかわりがほとんどない。	現在お預かりしているお子さんの特性や発達段階、安全面を最優先に考え、直接的な交流の機会を意図的に制限している。	地域施設の利用や、公共交通機関を使用した外出などを通して、地域の中で同じ空間を共有しながら過ごす経験を大切に、社会参加に必要な基礎的な力を、段階的に身につけられるよう支援していきたい。
3	職員の職種に偏りがある。	児童指導員、保育士が複数所属しているが、PT,OT,ST、心理士、看護師などがいないため、知識や視点の偏りを感じることもある。	より専門的な支援をしていくことができるよう、研修等でさまざまな視点からの知識、技術を身につけていく。